

# 「安否を伝える」

～災害用伝言サービス～

みなさん「110」「119」は何の番号ですかと聞かれれば、すぐに警察、消防への緊急通話と答えられると思います。しかし、「171」と聞いてとっさに答えることができる方は少ないのではないのでしょうか。

「171」は、地震など大規模な災害が発生した際に、被災地のご家族や知人などの安否を確認するための手段として、また、被災者が自分の安否を伝えるために使われるサービスです。「災害用伝言ダイヤル（171）」、「災害用伝言板」、「災害用音声お届けサービス」。みなさんもう一度家族で使い方を確認しましょう。自宅の電話番号の前に「171」をダイヤルすることで安否を伝えることができます。また、とっさに「171」に電話をかけるのは難しい事です。NTTでは毎月1日と15日に体験利用できるサービスもありますので、ご利用ください。

※伝言の録音・再生時の通話料は利用された方の負担となります（体験利用時も同様となります）。なお、伝言録音等に伴うサービス利用料は無料です。

## ご利用方法

↓  
171にダイヤル

↓  
音声ガイダンスによる案内録音は①  
再生は②

被災地の方は自宅の電話番号を、被災地外の方は被災地の方の電話番号を市外局番からダイヤルしてください。

国見町だったら  
024-585-XXXX

↓  
音声ガイダンスによる案内に従い、録音（再生）

# 各地区で 防災訓練

自分の脚で、目で、  
再確認

10月19日、各地区毎に防災訓練を実施しました。

今回の訓練では、各地区自主防災会が主体となり、町で初めての取り組みとなる「各地区、同日での実施」となりました。地区ごとに防災行政無線（同報系）により避難勧告が発令され、それぞれ一時避難場所への避難及び安否確認が実施されました。その後は、各地区中央集会所等で各地区の訓練が実施されました。小坂地区では、自衛隊による「道路寸断による救出訓練」、藤田・山崎地区では消防署による「救助訓練」や自衛隊・日赤奉仕団による「炊出し訓練」、石母田地区では（一社）福島県警備業協会の協力のもと「応急救護訓練」、森江野地区では(株)山際ホース専門店との協力のもと「初期消火訓練」、大木戸地区では大木戸駐在所署員による「防災講話」や消防署の協力のもと「応急救護訓練」、大枝地区では社会福祉協議会の協力のもと「要支援者講習」などが実施されました。

各地区毎に実施されたことで、多くの方が訓練に触れ合う機会が増え、充実した防災訓練となりました。

地区	訓練メニュー
小坂	町災害対策本部との通信訓練、避難所開設訓練、自衛隊による救出訓練、初期消火訓練、心肺蘇生法・AED取扱い訓練、要支援者支援訓練、炊出し訓練
藤田・山崎	初期消火訓練、心肺蘇生法・AED取扱い訓練、煙体験、炊出し訓練、消防署による救助訓練、自衛隊車両及び資機材展示、東北電力・NTT東日本東北・県LPガス協会県北支部による展示ブース
石母田	初期消火訓練、応急救護訓練
森江野	町災害対策本部との通信訓練、初期消火訓練、防災倉庫確認
大木戸	町災害対策本部との通信訓練、初期消火訓練、AED取扱い・応急手当訓練、炊出し訓練、防災倉庫確認、消防団による放水訓練、大木戸駐在所署員による防災講話
大枝	町災害対策本部との通信訓練、防災倉庫確認、要支援者支援訓練、初期消火訓練



① 森江野地区防災訓練  
② 大木戸地区防災訓練  
③ 石母田地区防災訓練  
④ ⑩ 小坂地区防災訓練  
⑤ ⑧ 大枝地区防災訓練  
⑥ ⑦ 藤田・山崎地区防災訓練

## Interview



国見町消防団長  
鈴木 耕治さん

「各地区の訓練会場を回ったが、各地区で工夫して訓練を実施していて、共助の意識が高まっていると感じた。消火訓練や炊出しなど実際にやってみることが重要だ」と話してくれました。



国見町町内会長  
連絡協議会会長  
佐藤清二さん

「多くの町民が参加できるよう、地区ごとの防災訓練でしたが、自主防災会の連携と防災力の確認を行うことができ、また、町民の防災意識の高揚に繋がった」と話してくれました。



左から菅野三枝子さん、響子さん、航太さん

「今年は親子三代で参加の菅野さんご一家。「震災後非常食などの準備を行っている。また、日頃の訓練も大事」と話してくれました。」